

その3 二十一世紀土地改良区創造 運動について

「土地改良区の愛称が「水土里（みどり）ネット」に決定」

土地改良区とは、農地の水管理や頭首工・水路などの農業用水利施設の維持管理を行う農家の団体であり、日本全国に約七千団体（沖縄県下百五十四団体。平成十四年三月末）があります。土地改良区は農業生産を支えているだけでなく、四万キロにも及ぶ農業用水路を通じて、地域の水循環機能を維持し、生態系の保全や良好な景観の保全に資する等公益的な役割も担っています。

しかしながら、多くの土地改良区では、都市化・混住化等に起因する農村の共同意識の低下や、高齢化・兼業化による農村地域の活力の低下により施設管理の粗放化や組織の弱体化に直面しています。

これらの事態に適切に対処し、各地で継承されてきたふるさとの環境を育む大切な資源を次世代に引き継ぐため、都道府県土地改良事業団体連合会が中心となり、「時代と共に、地域と共に生きる土地改良区」の実現を目指して、平成十三年度より「二十一世紀土地改良区創造運動」

が展開されているところです。その運動の一つとして、土地改良区の活動がイメージされ親しみが沸くような「愛称」募集が全国で実施

され、十月二十九日の全国土地改良大会において「水土里（みどり）ネット」と発表されました。さらに、平成十四年十月に糸満市真栄平土地改良区を中心に「農業体験ふれあいバスツアー」が開催され、糸満市立光洋小学校の子供たちと芋掘りを行うとともに、土地改良施設等の見学を通して、農業農村の果たしている役割と、これらを管理して

いる土地改良区について説明しました。「農業体験ふれあいバスツアー」については、平成十五年三月に感想文集・感想画集として取りまとめられ、関係者や一般の方々に配布を予定しています。今後とも、これらの運動を通じて、土地改良区のイメージアップに繋がるよう展開していきます。

農業体験ふれあいバスツアー！



掘った芋と子ども



みんなで芋掘り